

食肉衛生検査所だより その4

石川県金沢食肉流通センター（と畜場）では、牛や豚を食肉にするために、と畜検査員（獣医師）が1頭毎検査を行っています。その検査で異常を見つけ、詳しい検査が必要であると判断した場合には精密検査を行います。今回はその精密検査の内の病理組織検査について説明します。

病理組織検査は、検査のために採取した複数箇所を材料をスライドグラスにスタンプし、染色した後、顕微鏡を用いて細胞形態を確認します。その際、複数箇所でも異常な細胞を確認し、血液検査の結果などを合わせて食肉として流通することが可能か総合的に判断します。その結果、問題が無いと判定したもののだけが食肉として流通します。

またその後、最終的な病変の診断名を特定するために、採材した材料をホルマリン液で固定した後、ろう（パラフィン）で固めて薄く切ります。これをパラフィン切片といいます。作成したパラフィン切片は、診断に適した様々な方法で染色し、これを顕微鏡で検査します。

と畜検査員がこのような検査を行うことで、安全で安心な食肉が食卓に供給されています。

○病理検査で見られる主な腫瘍

・牛白血病

血液中の白血球や全身のリンパ節が悪性腫瘍となる「血液のガン」で、近年全国で発生件数が増加している病気です。牛白血病は、主に牛白血病ウイルスの感染が原因となっており、牛白血病と診断されたものは全て廃棄します。

・メラノーマ

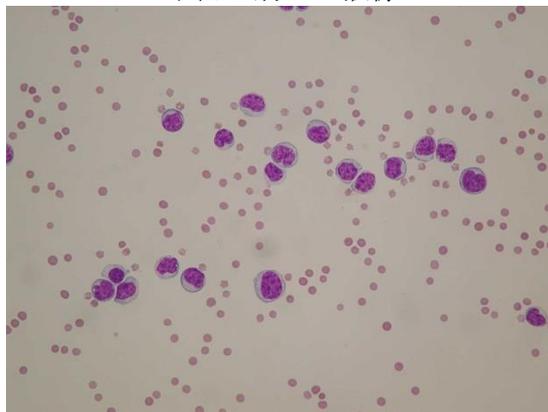
メラノーマは黒色腫のことで、メラニン色素を作り出す色素細胞が腫瘍化したものです。メラノーマが皮膚や内臓の一部にのみ見られる場合、その部位のみを部分廃棄しますが、全身にメラノーマが広がっている場合は全て廃棄します。

ディスクッション顕微鏡



最大5名まで顕微鏡検査が可能

牛白血病の血液像



白血球の増加と腫瘍化